綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol. 489
発行責任者　吉　田　大　樹
編集責任者　吉　田　卓　弘

# 継承、そして進化 ～50の情熱（おもい）を、未来へ～

第50代　理事長
**吉田　大樹**

## 1．はじめに

社団法人福島青年会議所2013年度理事長を務めさせていただきます、吉田大樹と申します。歴史と伝統ある福島青年会議所を1年間預かるにあたり、ご挨拶をさせていただきます。2011年に発災した東日本大震災、特に原子力災害より福島の状況は一変してしまいました。こんな状況の中だからこそ、我々、青年がやるべき事があります。我々青年が、青年らしい運動をする事で、福島らしい復興、さらには明るい豊かな社会の実現に繋がると確信し、行動をして参ります。

## 2．創立50周年について

2013年７月、福島青年会議所は創立50周年を迎えます。50年の歴史は、諸先輩の運動はもちろんですが、地域社会の皆様の協力があったため、継続してこられました。

また、福島青年会議所は50年の歴史の中で、様々な運動をしてきましたが、全て諸先輩の情熱（おもい）が込められた運動をしてきたと思います。形は変わっても情熱（おもい）は不変であり、50年の情熱（おもい）を現役メンバーで継承し、進化させ、メンバー全員がベクトルを合わせ、今後５０年へしっかり歩んで参ります。本年度のスローガンは、そういった過去50年の歴史や情熱（おもい）を、未来の５０年に繋いで行けるようにとの願いを込めまして、掲げさせていただきました。

## 3．公益法人格取得について

2008年12月に公益法人制度改革が施工され、福島青年会議所はこれまで準備を重ねて参りました。我々の運動は、明るい豊かな社会の実現が目的であり、そのための運動、事業を重ねて参りました。公益法人格を取得することにより、法的にも公益として認められ、より価値のあるものである証として、可能性を最大化するための手段として、公益法人格を取得する必要があると考えております。

また、取得した際の、運営や維持継続方法についても、しっかりと作り上げ、今後に継承して参ります。新たな50年がスタートするにふさわしい取得の時期であり、2008年から託されてきた責任を、しっかりと全うして参ります。

## 4．理事長の想い

我々が愛する福島に、震災以降、大きな変化が起きています。その中でも人口減少については、最も大きな問題の一つと考えられます。現状、何も行動を起こさなければ、衰退していくことは目に見えています。更に、福島のこども達の環境が大きく変わっ

てしまいました。我々もそうですが、こども達は知らぬ間に、今の環境になってしまっています。明るい豊かな社会の実現には、今後、福島が復興し、永続的に繁栄していくためにも、こども達の力は非常に大きいと考えています。こども達が地域に愛着を感じて頂き、地域の一員として自覚を持ってもらうことで、今後の福島を担って頂く必要があります。我々も小さい頃、先人(地域のおとな達、ＪＣの諸先輩)に大変お世話になった記憶があると思います。その方々に恩返しをする意味でも、我々は行動し続けなければなりません。諸先輩方の情熱(おもい)を進化させ、現在(いま)我々が出来ることを模索し、魅力ある地域(まち)への進化に繋げ、人口減少を食い止めるべく、まちづくり事業を行います。また、こども達と一緒に我々も成長できるような、ひとづくり事業を行い、福島の復興を担う青少年の育成をして参ります。

**５．本年の事業(組織)について**

本年度の組織は、50周年特別室、公益特別委員会、まちづくり委員会、まつり継承委員会、ひとづくり委員会、会員拡大・研修委員会、総務・渉外委員会、と７つの室･委員会を組織し､運動を行って参ります。

まず50周年特別室ですが、創立50周年記念式典、記念誌の発行、記念事業の開催を行います。担当理事を筆頭に、全てのメンバーが所属するようになり、メンバー全員で50周年の成功に向かってまい進します。次に公益特別委員会ですが、公益法人格取得の申請、取得後の維持継続のためのセミナー開催等、いままで重ねてきた公益法人格としての準備を、形にしていく委員会となります。続いてまちづくり委員会、まつり継承委員会、ひとづくり委員会ですが、「わらしっ子塾」を筆頭とする青少年育成事業や、地域を活性化させる事業の開催、またはわらじ祭りへの参画等、福島青年会議所が行う事業のほとんどが、この３つの委員会で開催されますので、福島青年会議所の顔となる委員会となります。会員拡大・研修委員会は、文字通り会員の拡大を推進し、会員の資質を向上させるような研修を行う委員会です。最後に総務･渉外委員会ですが､月に１度の例会の設営や、各種大会への引率を行う等、メンバーむけの仕事を行う委員会です。

それぞれの委員会に伝えてあることは、継続している事業についても、何かしらの変化を要望しております。それは、スローガンにもある通り、変えてはいけない部分と、変えなければならない部分があるからです。どのように変化し、進化していくのかは、皆様に直接ご覧いただければ幸いです。

**６．会員拡大について**

ここ数年、会員の減少が続いています。先輩達が築いてこられた福島青年会議所運動も、会員がいることで成り立っています。昨今は激しい経済環境、生活環境であるため、会員拡大が難しいとの話もあります｡しかし､我々の活動は､間違いなく､人のため､地域のために運動をしており、地域に必要とされています。このことに誇りを持って会員拡大を行って参ります。また、会員拡大するうえで、勧誘される側は我々の行動、言動、事業、メンバー個人を評価していると思います。福島青年会議所の魅力、メンバー個々の魅力を発進し、会員拡大を行って参ります。

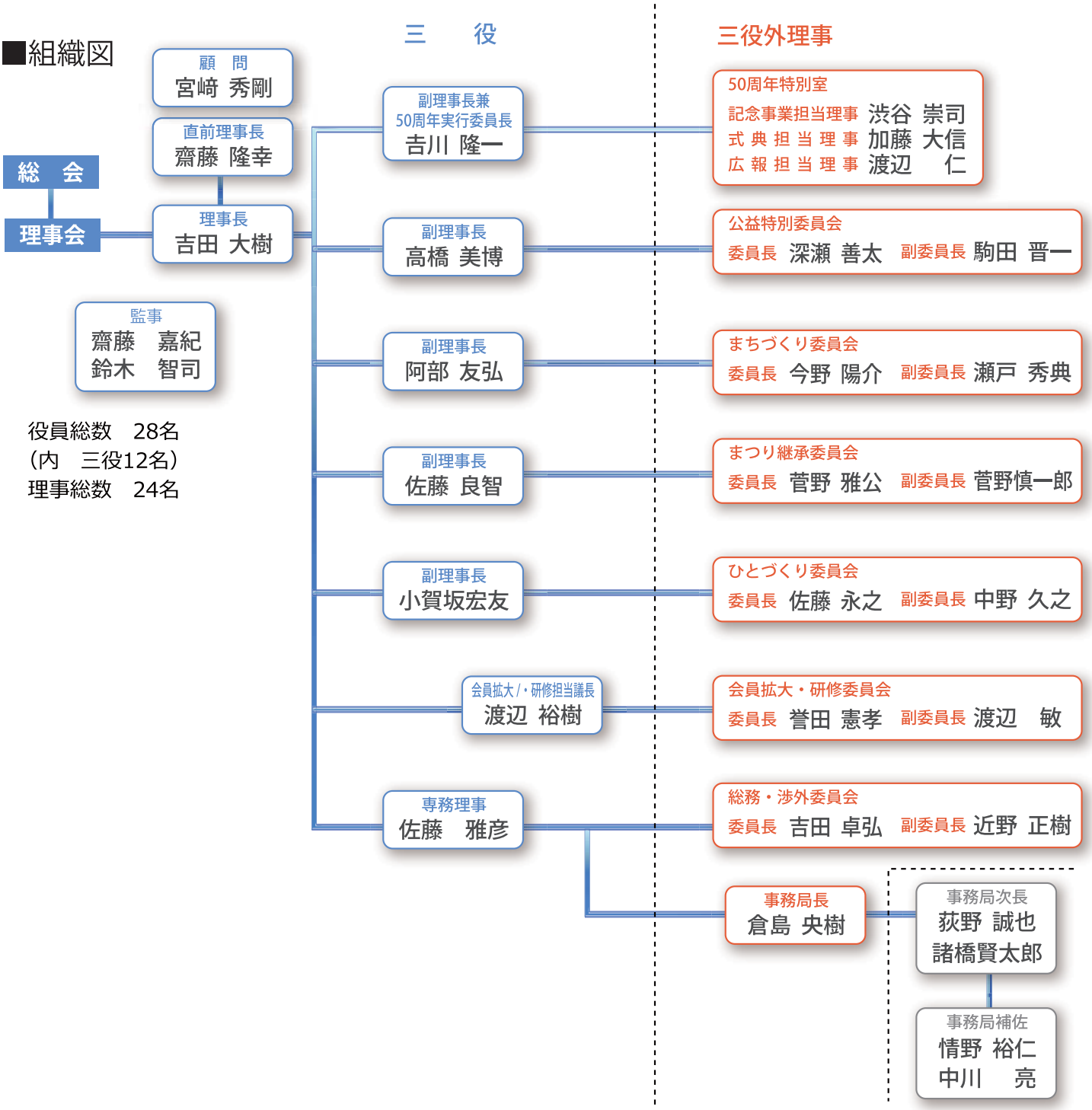
**７．結びに**

世の中の状況は刻々と変化し、昨今はそのスピードが増しているように思えます｡ここ数年を振り返ってみても、100年に一度の不況と言われた、リーマンショック、1000年に一度と言われた、東日本大震災、そして、円高、欧州危機、自然災害(日本を含む全世界)､様々に急激な環境の変化が起こっています。情報伝達のスピードアップ、グローバル化が進み、日本以外で事が起こっても、直ぐに、日本経済に影響を与える時代となっています。我々はこのような世の中でいかに、生きていくか？次世代、次々世代に何を残していけるか？が大きな課題だと考えます。

企業もそうですが、世の中に貢献するため、世の中の、流れ、変化に対応し、継続していかなければなりません。青年会議所は、会員同士切磋琢磨し、まちづくり事業、ひとづくり事業を通して、いかなる状況にも対応できる、人財の育成の場であると考えます。メンバーの皆様と同様、私自身も今年１年でまだまだ成長させて頂きます。

最後に、福島青年会議所　第50代理事長という身に余る重責を与えてくださいました全ての皆様に深く感謝申し上げると共に、私の持てる力の限りを尽くして職責を全うすることをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## ■組織図




役員総数　28名
（内　三役12名）
理事総数　24名